

# 2019 年度事業計画

## 概要

大学を取り巻く環境は大きく変化している。少子化の進行という日本固有の問題もあるが、それ以上に、グローバル化・情報化の進展や大学がユニバーサル段階に達したことによる変化が大きい。ユニバーサル段階の大学は、研究・学術機関としての役割はもとより、それをベースにして、社会の様々なニーズに応えつつ多様な学生の教育にあたる高等教育機関としての役割を果たすことを求められている。この役割の遂行は、おそらく、大学が自覚しているよりも強く求められており、また、大学が自覚している以上に大学こそが果たしうる役割である。清泉女子大学もこの任を積極的に担わなければならない、そのためにはどのような教育体制を組み立てて行くのか、大きな課題となっている。

清泉女子大学には、よき伝統ゆえの課題もある。改めて述べるまでもなく、本学はカトリックの聖心侍女修道会が設立した大学である。本学創立以来、同修道会の教育に対する理念とそれに基づく建学の精神は、清泉女子大学にとって何よりも大切な礎となってきた。シスターが直接教育に携わり、あるいは理事長として大学運営の中核を担っているときは、自ずとその礎に目を向ける機会が多かったが、時代は変わった。理事・評議員には現在もシスターが就いているとはいえ、かつてと比べれば、その警咳に接する機会は限られている。シスターとともに職務を果たしてきたベテラン教職員の定年退職も重なり、その時代を知らない教職員が増えつつある。

このような状況のもとで、本学が教育・研究活動を正しく進めて行くためには、よき伝統を今まで以上に意識的に振り返りつつ、しかしそれをただ墨守しようとすることなく、現在の社会から大学が求められている責務や役割を明確に理解して、清泉女子大学のこれからのあり方を創造的に考え、それを具現化する方途を探らなければならない。

幸い、数年来続いた3ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）の策定・確認作業、高い評価を得ることができた第3期の認証評価やそれと関連する質保証プロセスを通じて、教職員が、建学の精神に基づく教育体制のあり方について、意義や課題の共有を進めることができた。また、2017年度の中堅・若手教職員による『「学ぶ清泉」を目指したカリキュラム改革等に関する第2次答申』を踏まえて、2018年度は、カリキュラム改革等を中心とする教学面での総合改革の検討作業を続け、カリキュラムやそれを支える施設・設備の方向性について合意を得る段階に至った。

2019年度は、これらの作業の成果を踏まえて、これからの清泉女子大学の新たな礎を築くために、具体的なカリキュラム構築作業や施設・設備面の計画立案・投資を順次進める。

# 事業計画の基本方針

## 1 建学の精神の共有

カトリックの聖心侍女修道会が設立した大学である清泉女子大学の歴史と建学の精神を教職員が共有し、日々の教育・研究活動の基盤とするように図る。

## 2 カリキュラム改革

学生の主体的な学修を促すため 2021 年度から実施予定の総合改革（半期 13 週 105 分授業への移行、会議日の移動、初年次教育の必修科目増設による初年次教育強化、アクティブラーニングの手法をとり入れた授業の促進、卒業論文もしくは卒業研究の全学必修化など）に向け、具体的な計画を立てて準備を進める。

## 3 教育・学修支援センター設置

2019 年 4 月より教育・学修支援センター準備室を開設し、本年度後期中に教育・学修支援センターの設置を目指す。

## 4 BYOD 導入及びそれに付随する施設・設備の整備

2020 年度入学者から BYOD を全面実施するために、2019 年度は、BYOD 実施に際して必要な学内情報環境基盤の大幅な改善等の整備を実施する。

## 5 広報の強化

18 歳人口の激減期に入り、また、人文系学部や女子大学を取り巻く環境が厳しくなる中、本学の優れた点（教育・校風・施設等）をより積極的に伝えられる広報体制を構築する。

## 6 グローバル化の促進

国内ならびに国外の大学等との連携を進め、本学学生の留学を物心両面から支援し、提携大学からの正規交換留学生等を受け入れる体制を強化する。

## 7 学生生活支援

本学に入学した学生が、授業内および授業外での活動を通じて充実した学生生活を送り、将来を見据えたライフプランを立てることができる人となることを支援する体制を、部署を超えた教職員の連携・協力により整える。

## 8 ラファエラ学生寮の運営と国際交流の推進

聖心侍女修道会から修道院の一部の提供を受けて開設したラファエラ学生寮の運用を始める。学生寮の安全でスムーズな運営を図り、また、国際交流等の活動の場となるように工夫する。

## 9 高大接続に向けた入試改革と、入学定員・収容定員の適切な管理

高等教育改革が進展し、高大接続の重要な要素である入試においても積極的な対応が求められ

ている。入試制度の新設や変更については、受験生への告知期間が必要であるため、早急に具体的な検討を行う。入学定員を適正に管理するとともに、収容定員の適正化を図る。

## 10 研究活動の活性化

教員や大学院学生の研究環境の一層の充実を図り、各研究所間の交流を促進して、研究会活動が活発化するように支援する。他のカトリック大学や協定大学、近隣の大学等との研究や大学院教育における連携強化を図る。

## 11 地域連携の推進と社会貢献の充実

品川区や鹿児島県等との協力体制を維持・強化し、他大学・機関との連携・協力を進める。併せて、学内の部署間で情報を共有し、全学的な協力体制の整備・強化を図る。

## 12 職場環境の改善、業務の整理・削減と学内組織（部署と委員会）の整理・統合に向けた検討

学生気質の変化や、大学教育に対する社会的ニーズの多様化等、大学を取り巻く環境の急激な変化を受けて、教職員の校務負担は年々増加している。教育の総合改革で新たな業務も生じる中、教員が教育・研究に、職員が校務に注力できるよう、教職員の業務負担の整理・削減を図り、現在の部署と委員会の整理・統合を進める。

## 13 内部質保証システムの効果的な運用と教学の質保証体制の確立

各部局、教学組織における自律的な PDCA サイクルを検討し、本学に適した全学的な内部質保証体制の確立を目指す。

## 14 大学施設・設備に関する支出の重点事項

教育研究等環境に関する大学の方針に基づき、施設・設備の補修・更新、長期修繕計画に基づく補修、3号館耐震化、災害対策等に必要な措置を実施する。

## 15 収入増の取り組み、経費削減の取り組み

私立大学を取り巻く環境が一段と厳しくなる中で、教育研究活動を安定して遂行するための財政的基盤を確立するべく、収入源の多様化、および経費削減に努める。

## 16 創立 70 周年記念行事の計画の策定

2020 年度に本学は大学創立 70 周年を迎えることより、創立 70 周年記念行事の計画を策定する。

# 行動計画

## 1 建学の精神の共有

- ・建学の精神に関する研修会を行う。
- ・姉妹校新任教職員研修会、中堅教職員研修会に参加し、姉妹校で共有している建学の精神を確認し、それに根ざした教育実践について考える機会を持つ。
- ・聖心侍女修道会の足跡を学ぶ研修を行う。

## 2 カリキュラム改革

- ・カリキュラム改革について、すでに定まっているものを含め、以下の事項について、教育内容、教育方法、運営方法等を具体的に検討する。
  - ① 初年次教育科目の教育内容、教育方法、運営方法
  - ② 共通の語学科目の整備と強化
  - ③ 共通教養の再構築
  - ④ 各学科専門科目のカリキュラム改革
  - ⑤ 教養教育と専門教育の連携
  - ⑥ 副専攻の整備
- ・非常勤講師に向けて、改革の意義や目標を含め、十分な告知を図る。
- ・2021年度から実施予定の、会議日の変更（木曜から水曜へ）および授業時間の変更に対応した、時間割の基本的な枠組を作り提案する。
- ・共通の語学教育について、言語圏の枠を超えて全学的な意見交換を行い、総合改革に向けた整備・強化の方向性を定める。

## 3 教育・学修支援センター設置

2019年4月に教育・学修支援センター準備室を立ち上げる。2019年度後期または2020年4月からの教育・学修支援センター発足に向けて、以下の3項目を中心に行動する。

### 〈教育支援〉

- ・カリキュラム改革の柱の一つである共通科目（初年次教育、キャリア教育、共通の語学、共通教養、共通基礎科目、資格課程等）のマネジメントのための実務や調整を担当する。
- ・IRやFDを通じた授業改善のための情報提供、アクティブラーニング等の研修と、授業への導入支援を行う。

### 〈学修支援〉

- ・学科や授業の枠を超えた学び（PBL、ボランティアラーニング、特別資金の流れを汲む種々の活動等）の機会の提供と支援を行う。
- ・学修する力の強化が必要な学生に対する能力向上の機会を提供する。また、学生生活に困難を持つ学生の問題解決をサポートする。教員による学生面談と、学生カルテ等による情報共有を支援する。

### 〈総合支援〉

- ・ラーニングコモンズの活用を促進する。
- ・教育・学修支援センターに所属する支援スタッフについて、今後学生をサポートする際に必要とされるスキルを検討する。

#### 4 BYOD 導入及びそれに付随する施設・設備の整備

〈BYOD 導入に伴う関連事項の決定〉

- ・学生が所有するデバイスの基本仕様、学生・保護者の経済的負担への対応法等を決定する。

〈無線 LAN 環境の拡充〉

- ・2019 年度は 3 教室程度の整備を実施し、その効果の測定と技術的な問題点の洗い出しを行う。その結果を受け、2020 年度以降の整備計画を策定する。

#### 5 広報の強化

- ・全学統一のイメージ戦略を立てて実践する。
- ・受験生の動向や地域・他大学の情報等を入手しながら、広報戦略の検討を進める。
- ・学科の特性に応じた広報を強化する。
- ・入試広報と大学広報を包括的・効果的に行い、広報力が高まるよう、デザインやコンテンツを見直し、大学のホームページをリニューアルする。
- ・受験生特設サイトをリニューアルし、新サイトを公開する。
- ・Web 媒体を有効活用して大学の知名度を高める。具体的には、Web 媒体で日々の大学や学生の情報やニュース、さらに地域連携や社会貢献等の大学の取り組みなども積極的に発信する。
- ・大学ホームページを中心に、Facebook、Instagram などの記事更新、大学プレスセンターへの情報提供を活発に行う。
- ・外部パートナーと連携して Web 広報強化に向けた動画を完成する。

#### 6 グローバル化の促進

- ・学生や大学院学生の留学を物心両面から支援する。
- ・学生や大学院学生の語学力を高め、異文化理解を深化させるための多様なプログラムを提供する。
- ・外国人学生の受け入れの充実を図るために、オリエンテーションを日本語と英語で行い、資料等の英語訳を作成して、留学生に配布する。
- ・スペインの協定校カスティーリャ・ラ・マンチャ大学 (UCLM) と本学との間で、学生、教職員の相互派遣や受け入れを行い、相互交流を促進する。

#### 7 学生生活支援

〈学生の状況把握と情報の共有〉

- ・入学した学生の大学生活が順調であるか、自らの対処能力を超えた困難を抱えていないかを、授業への出席状況、アンケート（ウエルネスセンターや学生課が施行）、教員による学生面談などから把握する。必要に応じて教員や各部署が学生を支援する体制を維持、改善する。

教員は学科の学生に年に一度は面談を行い、支援を必要とする学生を適切な部署へつなげる。教職員が適切な範囲で必要な情報を共有できる体制を整備する。

〈留年や退学の防止〉

- ・2019年度入学者より導入が決定したGPA制度と退学勧告制度を、学生と保護者（保証人）に周知する。この制度を円滑に運営するための諸々の準備を行う。新入生にはガイダンス等で十分に説明し、該当する学生を迅速に抽出する仕組みを整える。

〈学生に必要な情報や支援の提供と、支援体制の充実〉

- ・課外活動、国内外における種々の活動情報、キャリアプランニングやインターンシップなどによるライフプラン策定の支援、就職関連情報、図書館情報、レポート作成支援等の情報を提供し、興味をもつ学生が担当部署につながりやすい体制を構築する。教育・学修支援センターと各担当部署が協力して学生の活動状況を共有する。

## 8 ラファエラ学生寮の運営と国際交流の推進

〈ラファエラ学生寮の運営体制の整備〉

- ・2019年度より、留学生と日本人学生がシスター方と起居を共にする、本学ならではのラファエラ学生寮がオープンする。本学生寮は、生活・習慣の異なる学生たちが安心して勉学できるように、受付に非常勤職員を配置し、防犯体制を整える。学生課、国際交流センター、寮運営委員会、その他の教職員が協力して運営を行う。

〈ラファエラ学生寮での国際交流推進〉

- ・留学生と日本人学生の交流を深めるイベント、シスター方との交流の機会となるような会を開催する。運営に関して、寮生と担当する教職員のミーティングを定期的で開催する。

## 9 高大接続に向けた入試改革と、入学定員・収容定員の適切な管理

- ・アドミッション・ポリシーと入試との連動を再検証する。
- ・2021年度入試における「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入試制度について、具体的な内容を検討して確定させ、大学ホームページを通じて公表し、受験生に告知する。
- ・各学科の入学定員超過率をおさえ、過去5年間の平均を適正範囲におさめることを目標とする。
- ・大学院の入学定員・収容定員の適切な管理、特に修士課程の定員充足率を上げる。
- ・学生の受け入れの適切性についての点検・評価を行う。

## 10 研究活動の活性化

- ・教員や大学院学生の研究活動の活性化のために多様な支援を行う。
- ・人文科学研究所、キリスト教文化研究所、言語教育研究所、生涯学習センターおよび大学院の連携を強化するために、研究所相互の企画を立案して大学院学生を含めた共同研究会等を開催する。
- ・大学院学生の研究活動の活性化を図り、本学大学院の魅力をアピールすることによって、大学院修士課程への入学者の増加につなげる。
- ・「発展協力会大学院海外研究活動奨励金」に加え、国内の研究活動への補助の体制を整備す

る。

## 11 地域連携の推進と社会貢献の充実

〈地域連携・社会貢献のための学内外の連携〉

- ・品川区や鹿児島県等との協力体制の下に継続企画を実行するとともに、更なる連携の方策を模索する。
- ・他大学との連携・協力の可能性を模索し、実現に向けて交渉を進める。
- ・学科・部署間の連携を深める。具体的には、講座企画の充実に向け、人文科学研究所、キリスト教文化研究所が主催する土曜自由大学と生涯学習センターのラファエラ・アカデミアの講師情報の共有等を進める。
- ・地域連携や社会貢献が学生の体験・学びの場となるよう工夫する。

〈ラファエラ・アカデミアの充実〉

- ・受講申し込み環境の改善に向け、Web 申し込みフォームを改修する。
- ・講座運営関連データを整理・集約し、個人情報保管に伴うリスクの軽減及び業務の効率化を図る。
- ・一日講座チラシ展のイベントを行い一日講座への関心を高めるとともに、これまでの講座を振り返り、今後のビジョンを明確にする。

## 12 職場環境の改善、業務の整理・削減と学内組織（部署と委員会）の整理・統合に向けた検討

2019 年度から 2022 年度までの 4 年間に以下を行う。2019 年度は、そのための検討・準備を進め、順次整理・統合を始める。

- ・教職員の校務・業務を見直し、整理・削減を図る。
- ・部署と委員会の数をそれぞれ 4 分の 3 に減らすことを目指す。
- ・適切なワーク・ライフ・バランスの実現に向けて職場環境を整備する。

## 13 内部質保証システムの効果的な運用と教学の質保証体制の確立

- ・各部局、教学組織における自律的な PDCA サイクルを検討し、本学に適した全学的な内部質保証体制の確立を目指す。
- ・質保証に関する PDCA サイクルを機能させるために、アセスメント・ポリシーに基づき、学修状況等を知るための指標を整備する。

## 14 大学施設・設備に関する支出の重点事項

〈建物の長寿命化を図る補修計画に基づく工事および施設・設備の更新〉

建物の長寿命化を図るため立案した長期修繕計画に基づく補修工事、および老朽化著しい図書館空調の更新及び化学室の天井補修工事を実施する。

- ・長期修繕計画に基づき、2019 年度は 4 号館、図書館、講堂の外壁および防水工事を実施する。
- ・図書館空調の更新（2 年計画の 2 年目）、化学室の窓枠、天井の更新工事を実施する。

### 〈3号館耐震工事〉

- ・2017年度に実施された耐震診断の結果、建物の一部から耐震基準に満たない数値が検出されたことから、耐震工事を実施する必要性が生じた。検討の結果、2019年度は基本設計と調査工事、2020年度および2021年度は実施設計および耐震補強工事を実施する。

### 〈地盤動態調査および東斜面の表層土崩れ防止工事〉

大学敷地の安全性を保ち、自然災害発生時、本敷地及び隣地が受ける被害を最小限に止める。

- ・大学が立地する地盤の動きの有無について、継続観測を行う（2017年度からの継続）。
- ・崩落防止対策がなされていない東斜面の地表に、表土崩落用ネット（カンガルーネット）を敷設する。

### 〈教室AV機器のリニューアル〉

- ・毎年6～10教室ずつ、AV機器の入れ替えを行う。

### 〈仮想サーバ基盤の更新〉

- ・仮想サーバ基盤（ESXサーバ、ファイルサーバ）の更新を実施する。

### 〈学生カルテの改修〉

- ・学生カルテの操作性を改修する。

## 15 収入増の取り組み、経費削減の取り組み

### 〈補助金獲得の取組み〉

- ・教育の質を中心とした改善を一層進め、補助金の獲得を目指す。

### 〈寄付募集活動の推進〉

「発展協力会」の認知度を向上させ寄付者の裾野拡大を目指す。

- ・会の趣旨や活動実績が伝わる広報活動等を検討、展開する。
- ・会員・非会員等、対象に合わせた効果的な働きかけを検討、実施する。

### 〈教員人件費の抑制〉

- ・教員の給与体系を見直し、人件費の抑制を図る。

### 〈オンデマンド化による印刷環境の整理およびコストダウン〉

- ・学生・教職員の印刷環境を整理するとともに、オンデマンド化、印刷枚数制限ソフトの活用等により印刷コストの削減を図る。

## 16 創立70周年記念行事の計画の策定

- ・1950年に創設された本学の70年間の歩みを振り返るとともに、10年後、20年後、30年後の清泉女子大学について構成員一人一人が考える契機とする。
- ・創立70周年記念行事の具体的な計画を企画・立案し、2020年度の実施に向けた実施体制を整備する。

以 上